



沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学

学 報

第64号



沖縄キリスト教学院 創立60周年記念



2017 年度
キリスト教活動年間テーマ

キリストにあって互いに仕えよう

—Serving one another in Christ—



学校法人 沖縄キリスト教学院

理事長 伊波 美智子

礎 (いしずえ)

わたしのもとに来てわたしの言葉を聞き、それを行う人が皆、どんな人に似ているかを示そう。それは、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている。洪水になって川の水がその家に押し寄せたが、しっかり建ててあったので、揺り動かすことができなかった。(ルカ6:47~48)

いしずえ

礎は、「石据え」とも書き、家や橋を建てる時の土台、基盤、転じて物事の基礎を意味します。しかし冒頭に引用した聖句が指しているのは単なる土台石ではなく、マンション建設の際にパイルを地下の岩盤に突き当たるまで深く打ち込む、その岩盤のことです。東日本大震災の際の埋め立て地の液状化現象、杭打ち工事のデータを偽装した欠陥マンションが傾斜した事件等はしっかりした基盤の上に建物を建てることの重要性を教えています。

礎は、土台、基盤、あるいは基本理念と言い換えてもいいでしょう。学校でいえば、建学の精神・教育の基本理念にあたります。私立学校は建学の精神に基づいて教育を実践していくところに、その独自性があります。本学院は、キリスト教、平和、沖縄を3つのキーワードとする建学の精神を掲げています。本学院の創設を志した人々の胸の内には、凄惨な沖縄戦の体験がありました。二度と沖縄を戦場にしてはいけない、沖縄だけでなく世界のどこにおいても、人間の命だけでなく、生活も文化も、自然生態系をも破壊する戦争を世界のどこでもやってはいけないということ、そして住民を守らない軍隊、人が人でなくなる戦争の実態をまざまざと見せられた沖縄の人々の心を反映したのが建学の精神です。

高等教育機関・最高学府としての本学院の使命が地域の発展に貢献する人材の育成にあることはいうまでもありませんが、学校名にキリストを冠する本学院にはもう一つの使命があります。すなわち、初代理事長・学長の仲里朝章師の言う「キリストによって其感化を直接受けて人格を建造して行く」「聖書を教科としキリストを教師と仰ぐ学校」であり、「神」に創造された人間の本来あるべき存在としての生き方に回帰し、あらゆる人々、とりわけ小さく弱くされた人々に「隣人」として仕え、「地の塩、世の光」となる人材を社会に送り出すことです。

目に見えない礎ですが、逆境の時にこそ存在の底力が発揮されます。人生は順風万帆の時ばかりではありません。風が吹き、洪水が押し寄せ、地震があるのも常のこと、キリストに土台を据えて自分らしい生涯を生き抜く人材を育てるのは、やりがいのある使命です。今、18歳人口の減少や東京への人口一極集中等のため、地方の小規模私立大学は経営の危機に立たされています。本学院も例外ではありません。建学の精神という礎の上に、教育・研究、管理運営、地域貢献について他大学と差別化する戦略をいかにつくり、実践していくかが喫緊の課題であり、危機的状況の今こそ、建学の精神を守ることの意義が問われています。



沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学

学 長 友利 廣

平和への道標を照らす燈火であれ^{ともしび}

市場原理主義が席卷するグローバル経済の広がりや少子高齢化社会が高まる中で、高等教育機関の制度見直しが立て続けに起こっています。これらの影響は地方の小規模私立大学程大きく、状況変化への即応力を固める大学運営が求められています。

直近の大学制度の改正は従来型の大学設置基準とは一線を画した内容になっており、短期大学設置を定めた1964年の学校教育法改正以来となります。約半世紀ぶりの法改正の最大の特徴は、企業との緊密な連携の下で長期実習を行い、高度な「実践力」と豊かな「創造力」の育みを教育の根幹に据えろとしたところにありますが、法改正後に息継ぎ間もなく新たな大学設置基準を定めて学生募集を早々に行っている点に文部行政の危機感が現れています。この一連の大学制度改革によって登場した高等教育機関が専門職大学であり、専門職短期大学になります。

いまひとつの制度改革が、“大学等の研究・教育の質の向上と改善を支援する”とした従来の認証評価制度に加え、新たに導入した大学の規模で区分された入学定員の厳密化策です。この制度は既に始動しており、収容定員8千人以上を大規模校、4~8千人未満を中規模校、そして4千人未満を小規模校と定め、入学定員の厳密化を大規模大学から着手し、段階的に中規模校、小規模校へと求めていくものです。

教育制度の見直しが常にリスクを伴うものであることは従来の制度改革を検証すれば明らかですが、一方で、社会を取り巻く環境が大きく様変わりする中で制度改革なしには乗り切ることができないことも厳然たる事実です。それ故に、制度改革を所与のものとして受身で対応するのではなく能動的に大学改革へ臨むことが求められているのです。

さて、本学院は創立60周年という記念すべき年を迎えましたが、時期を同じくして本学院開学時の式典会場で学び舎となった首里教会が教会創立100周年を迎えました。創立記念事業の一環として進めてきた旧教会堂塔屋の献堂式(落成式)が2017年10月15日に催されたところですが、沖縄戦における首里攻防の激戦地となり骨組みのみを残し倒壊した教会堂塔屋の復旧の意義は大きく、緊張が増す東アジア地域において平和構築のシンボリック拠点としての役割期待が期待されます。本学院としまでも首里教会と連携の下、“平和への道標を照らす燈火”を平和教育の原点に据えて学生指導にあたっていきたいと思っています。

沖縄を取り巻くパラダイムシフトの影響を受けた本学院の教育の方針についても若干触れておく必要があります。アジア経済は雁行型経済モデルを再現するかのごとく、巨大化する中国経済の後を追うようにしてインド経済が台頭し市場規模を着実に拡大し、両国が世界経済の牽引役を果たしています。その影響は亜熱帯地域にある島嶼沖縄の経済に対しても追い風となっており、特に、観光分野におけるインバウンド市場はアジア諸国からの入域者数の大幅の増加によって沖縄経済の底堅い成長が期待され、地政学的にも沖縄の時代到来を予感させる状況になっています。学院創立60周年を機に、建学の精神の継承を確たるものとし、さらに、アジアのパラダイムシフトを追い風に、沖縄社会の発展の一翼を担う国際的感覚を身に付けた人材育成に邁進して参りたいと思っています。



理事長就任式

2017年11月27日

2017年11月27日 伊波美智子新理事長の就任式が仲里朝章記念チャペルにて開催されました。

日本基督教団沖縄教区総会議長である平良修牧師(第2代学長)によって、誓約並びに聖書伝達が厳粛に執り行われました。本学初の女性理事長でもあり、多くの来場者や教職員が見守る中、伊波理事長が決意と抱負を表明しました。



C O N T E N T S

学 報 第64号

* 理事長あいさつ・理事長就任式	2	* キリ学祭、部・サークル紹介	17
* 学長あいさつ	3	* 学生の活躍	18
* 【特集】沖縄キリスト教学院 創立60周年	4	* 卒業生の活躍	19
* 創立60周年記念募金・創立60周年 お祝いメッセージ	6	* キャリア支援	20
* 学院トピックス	7	* 2017年度 主な図書館行事	21
* キリスト教教育活動	8	* この一年の取り組み ~沖縄キリスト教平和研究所~	22
* 沖縄キリスト教学院大学・大学院トピックス	10	* 同窓会・後援会の活動	23
* 沖縄キリスト教短期大学トピックス	12	* 地域貢献	24
* 大学・短期大学【共催】	13	* 退職教員・採用教員メッセージ、研究活動	26
* 国際交流活動	14	* 寄付感謝報告・2017年度人事・2016年度決算報告	27
* 学生支援	16	* Open Campus 2018・大学見学・2019年度入試日程	28

沖縄キリスト教学院 創立60周年

特集

沖縄キリスト教学院は、1957年4月9日、当時の沖縄キリスト教団によって、キリスト教精神を身につけた人材養成を目的として、首里当蔵町の地に佇む首里教会を仮の校舎として創設されました。それから年月を重ね、歴史を刻み、2017年に60周年という記念すべき年を迎えました。



1960
沖縄キリスト教学院
短期大学の校章が制定
される(1960.1)



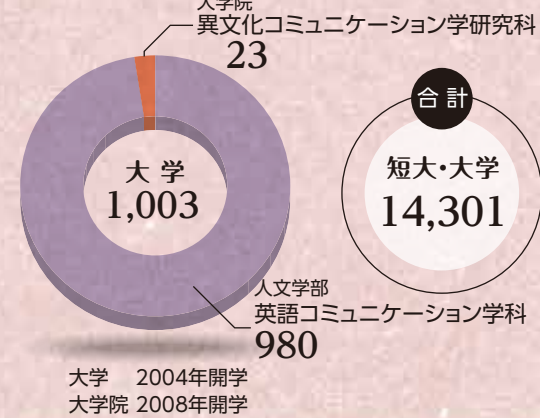
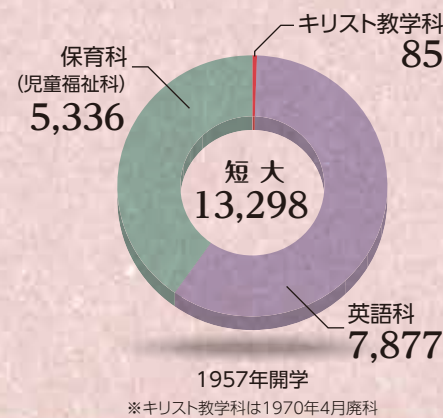
1970
沖縄キリスト教短期大学に
名称変更した際の校章
(1970.4.1)



2004
沖縄キリスト教学院大学設置に
伴い、短期大学と校章が「OCJ」
で統一される(2004.1)

卒業生数 単位:人

1959年度～2017年9月卒業生まで



合計
短大・大学
14,301

沖縄キリスト教団により
沖縄キリスト教学院創設
代表者 仲里朝章牧師
設置場所 沖縄キリスト教団首里教会

1957.4.9



初代 学長
仲里 朝章
1959

1959.3
財団法人沖縄キリスト教学院設立認可
沖縄キリスト教学院短期大学
キリスト教学科設置

1960.12
首里キャンパス校舎
1号館起工式



首里キャンパス
1962.9～1989.8



1962.9
校舎1号館落成

第2代 学長
平良 修
1966



第3代 学長
金城 重明
1975



西原キャンパスへ移転

1989.9



第4代 学長
大城 実
1979



第5代 学長
原 喜美
1991



第6代 学長
神山 繁實
1999



短大 第8代 学長
大学 第3代 学長
神山 繁實
2011



Peace をつくる
One Piece

短大 第9代 学長
大学 第4代 学長
中原 俊明
2012



短大 第10代 学長
大学 第5代 学長
友利 廣
2016



正門に立つ仲里先生
(仮校舎の首里教会)(1957年)



第1回卒業式(1959年)



首里キャンパスの坂道



授業風景(保育科)



授業風景(英語科)



1993 同時通訳集中講座
本学自慢のプログラムの一つ。夏休みの10日間連続休みなしで
講座は開かれます。第1回の受講者は28名(現在は第25回)。



協定校のノースウェスタン大学が本学を訪問(1992.6)

キャッチコピー
1996
大きな世界に開かれた
小さな大学
A Small College Open to the Wide World

キャッチコピー
2001
MISSION
沖縄キリスト教
短期大学で学ぶ



2010
キャッチコピー
2009
夢への扉は、
ここから開かれる。

キャッチコピー
2012
Peace Maker へ
～平和を創り出す者を
育てる学舎～



沖縄キリスト教学院大学開学10周年記念講演会にて(2014.10.15)
(左から)中原俊明氏、神山繁実氏、金城重明氏、大城実氏、平良修氏、
Randolph H. Thrasher氏、川平朝清氏(元副理事長)

思い出のグッズ



学生たちと談笑する
前田伊都子先生
(1957年)



校章バッジ



校章リング



キリ短 卒業チャリティEKEN
移転当時から2000年頃まで開催

写真で振り返る主な行事

■ 新入生オリエンテーションキャンプ



OCJCキャンプ
羽地青少年野外センター
(1973.10)

■ クリスマス礼拝・祝会



クリスマス祝会
(1961.12)



クリスマス礼拝・祝会 (2017.12.22)

■ ワイワイプラザ in キリ短 (保育科)



2008年度
ワイワイプラザ in キリ短 開始
(4回/年)



2017年度(5回/年)

祈りと学びをカタチにした海見える丘の上のキャンパス



建学の精神を象徴するチャペルを正面に、[知の泉]図書館をチャペルの下に配置し「祈りと学び」を強調。和を表す中庭を囲むように講義室、実習室、研究室を配置し、全施設を集中配置しているのが特徴。この配置はサンビエトロ大聖堂や首里城に、チャペルは開学当時の首里教会の六角塔を引き継いでいる。このユニークな外観は、1991年の日本建築学会賞を受賞している。

原 喜美 先生 逝去

原 喜美 本短期大学第5代学長が逝去されました

原喜美(はら・きみ)本短期大学第5代学長が、2018年1月13日に逝去されました。享年102歳。謹んで哀悼の意を表します。
原元学長は、1991年10月に学長に就任し、2期8年の任期を務められました。在任中は、夏期同時通訳集中講座開設や海外大学との交流協定を積極的に締結するなど、多くの実績を残されました。

—— 修学支援のための給付型奨学金創設 ——

創立60周年を記念して「給付型奨学金創設」のための募金を行っています。皆様のご支援どうぞよろしくお願いします。



- ◆ 名 称 沖縄キリスト教学院創立60周年記念募金
- ◆ 目 的 修学支援のための給付型奨学金創設
- ◆ 目標額 5,000万円
- ◆ 期 間 2017年7月～2020年3月

- 個人 1口 2,000円
(口数、金額にかかわらずお受けいたします)
- 法人 金額の設定はございません。

沖縄キリスト教学院 創立60周年 お祝いメッセージ

現実に向き合い、 変えていく力を学び取って！

キリスト教学科 3期生
高里 鈴代



創立3年目の1959年、入学から約2ヵ月目の5月30日、極小“学院”(当時はそう呼んでいた)の50人足らずの全学生は、授業を全て中断し、米軍戦闘機が墜落した宮森小学校に向かいました。児童11人を含む17人が死亡し200名余が重軽傷を負い、多くの校舎や家屋が焼失した大惨事の現場に駆けつけた私たちに、一体どんな動きができたのでしょうか。しかし、その場に駆けつけた人々と共に沖縄の現実に直面し、その矛盾を強く感じたことが、私自身にとって、人権、暴力から命を守るための強い意識づけになったことを振り返って思います。



3期卒業式は、まだ、首里教会の仮校舎でした。

60年の歳月を経て、極小“学院”から、質、規模ともに大きく成長を遂げている現在の大学に目を見張ります。教師や学友との出会いから、埋もれた歴史を学び、社会の不正義、暴力をなくしていくための知恵と、スキルと忍耐をはぐくみ育てられて、社会のあらゆる面において活躍する人材を生み出す大学への成長を祈ります。

略 歴 1940年生まれ。元那覇市議会議員。現在、「強盗救援センター・沖縄」代表。「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」共同代表、「辺野古に新基地を造らせないオール沖縄会議」共同代表など。著書：「沖縄の女たち―基地・軍隊と女性の人権」1996年。共著：「沖縄・社会を拓いた女たち」2014年など。エイボン功績賞(1996年)、沖縄タイムス賞(社会活動)2011年など。

出合いに感謝

保育科 33期生
真栄城 かの子



沖縄キリスト教学院創立60周年おめでとうございます。卒業生として心からお祝い申し上げます。

私は旧首里キャンパス最後の入学生で西原キャンパスで卒業しました。2カ所の学び舎で過ごした学生生活は私の人生において、現在の私につながる基礎となる充実した日々でした。先生方からは保育者としての原点を理論や実践で熱心に教えていただき、同じ“志”で学んだ友人たちとはクラスやサークル(児童文化研究会)で何事も一致団結して学内外のイベントや行事を成功させました。振り返ると、私は素晴らしい出会いによって影響を受け、学び、導かれて前進してきたことをあらためて実感しています。母校沖縄キリスト教学院、現在も交流が続く先生方、友人たち、先輩や後輩の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、2013年度より非常勤講師として後輩の皆さんと関わる機会を与えていただきました。喜びと責任の重さを感じつつ、授業では理論・実践に加え、現場での研究実践を通して得た経験や保育教育という仕事の素晴らしさを伝えています。

最後に沖縄キリスト教学院が沖縄や日本だけでなく、海外でも活躍できる輝く人材を育成する大学として今後のさらなる発展を願っています。

略 歴 (児童文化活動)
1994年 人形劇サークルゆめわらび結成(キリ短同期が中心)～現在 沖縄県内各地で公演活動
1997年 タイの国連本部見学⇒スラム街の子ども達にボードビル・人形劇公演
2004年 国民文化祭(福岡県にて)に参加。人形劇公演
2007年 九州人形劇フェスティバル沖縄大会実行委員長 人形劇公演
☆現在
社会福祉法人豊春福祉会 こくら保育園勤務
沖縄キリスト教短期大学 保育科 非常勤講師
近畿大学九州短期大学部 非常勤講師
豊岡短期大学 非常勤講師

「宝物」となる時を紡ぐ

英語科 32期生
新垣 友子



思い返せば、学生時代は、バイト、サークル、山のような課題に追われる日々でした。教職の課題や編入試験対策で多忙を極めながらも、同級生とバンドを組んで学園祭でライブをしたり、先生方にチケットを売り歩いて「勉強してるか?」と苦笑されたりしていました。バンドの練習、宿題と目の前の課題をこなし、友人と衝突したり、笑い合ったり、常に「今」を生きていた日々。キリ短での2年間は、一生の中でいちばん濃い期間であり、大切な「宝物」です。

あの頃の私たちは、常に先生方の信念に抱かれていました。「君たちの可能性は無限だ。世界に羽ばたけ!」常にそう言われて洗脳され、チャレンジを重ねることができました。今あるのは、あの充実した日々と、信じてくれた恩師への深い感謝です。

あの頃の恩師のように強い信念をもち続けたい、そして、学生たちの「宝物」となるような時を共に紡いでいきたいと思っています。



1988 バンドメンバーと共に(前列右)

略 歴 1990年3月～1995年3月 沖縄キリスト教短期大学卒業。桜美林大学編入学・卒業。その後、獨協大学大学院に進学。修士号取得(英語学)。
1995年4月～1998年3月 沖縄キリスト教学院大学非常勤講師。
1998年6月 スコットランドに留学。Edinburgh大学大学院博士課程入学。
2000年10月帰国。キリ短や沖縄大学で非常勤をしながら研究を継続。
2004年10月沖縄キリスト教学院大学専任講師。
2011年7月 博士号取得(言語学)。

ぼくだけ、別枠?!

保育科 50期生
ジョナサン・ラスムッセン



この度は、創立60周年を記念してのステキな節目、心よりめでたくお祝い申し上げます!

私が入学手続きを進めていた頃の話です。時は2005年の暮れ、東京で会社員として勤めていた私は、子どもを相手に仕事がしたいと思い、仕事を辞めて妻の実家、沖縄へ。保育科を希望し、応募枠について、社会人枠に該当するのか確認しようと思って問い合わせた際のやりとりです。

事務:失礼ですが、国籍は?

私:米国です

事務:では、社会人枠ではありませんね…

私:それなら、留学生扱いですか?

事務:えっと… 現在のご住所は?

私:東京です

事務:では、留学生でもありませんね…

私:なるほど。では、私はどの枠で手続きを進めればよろしいのでしょうか?

事務:…確認したら、こちらから折り返しますね。

結局、私のためだけに、「外国人枠※」という新しいカテゴリを設けてくださったと聞いて、今でも感動したのを記憶しております。

そして2006年に入学した私は、『キャンプリーダー』の役割も含めれば2年連続オリエンテーションキャンプに参加したことになります。ステキな思い出は他にもたくさんでしたが、キリ短・キリ学の学生として誰も聞いて大いにならず、共通するのは、渡嘉敷島への移動および現地での活動の思い出でしょう。

ステキな学びのチャンスと、ありがとうございました!

※外国人留学生・帰国生等推薦入試

略 歴 1990年 カナディアン・アカデミー 高校(神戸市)卒業
1994年 セント・オラフ大学(米、ミネソタ州)音楽専攻 卒業
1995年 米海兵隊へ志願・入隊
1996～1998年 沖縄・普天間基地へ配属
1999年 名誉除隊
1999～2005年 瑞穂医科工業(東京)にて勤務
2006年 沖縄キリスト教短期大学・保育科に入学
2008年 沖縄国際大学・心理カウンセリング専攻に入学
2010～現在 沖縄アミックス国際学園に勤務



キリ学が大好きな理由は、先生一人ひとりと距離が近く、心地良い空間で授業を受けられるからです。自分の英語力が伸びてると実感できた時がとて嬉しい一時です。(英コミ1年 リカきのこ)

学院トピックス

西原町と沖縄キリスト教学院大学および沖縄キリスト教短期大学との 包括連携協力に関する協定締結式

2017年3月8日に西原町役場において「西原町と沖縄キリスト教学院大学および沖縄キリスト教短期大学との包括連携協力に関する協定締結式」が行われました。

上間明町長、友利廣学長をはじめ西原町議員、双方関係者が出席するなか「相互の連携により、地域社会の発展に資するため、人的資源の交流と施設設備の活用を図り、共通の目的を達するため」に包括連携協力に関する協定が締結されました。

主な連携協力事項として、大型MICE施設に関連する人材育成(語学研修)、小学校教諭および児童を対象とした理科教育支援事業、地域子育て支援事業、児童生徒の学習支援への学生ボランティア派遣、学校教育現場における教材の共同研究、学力向上のための人材の提供、講演会や公開講座等の開講による生涯学習の推進、学生インターンシップ受入れと事前学習のための西原町による講師派遣などがあげられました。直近の連携協力事業につ

いて、上間町長は大型MICE施設に関連し、海外から訪れる利用者に対し、外国語で対応できる人材の育成と町職員および関係者の語学力の向上(語学研修など)を大学側に要望、それに対し友利学長は学院で長年蓄積された同時通訳者養成の経験と専門施設の活用を提案しました。また、会場から質問のあった「平和に関する取組み」について西原町が進める「平和で人間性豊かなまちづくり」と本学が掲げる「建学の精神」は共鳴する点が多くあり、平和に関する事業の推進について共同で取り組むことが約束されました。



沖縄ワタベウェディング株式会社と沖縄キリスト教学院大学および 沖縄キリスト教短期大学との包括連携協力に関する協定締結式

2017年10月26日に沖縄キリスト教学院において「沖縄ワタベウェディング株式会社と沖縄キリスト教学院大学および沖縄キリスト教短期大学との包括連携協力に関する協定締結式」が行われました。

小岸弘和社長、友利廣学長をはじめ、双方関係者が出席するなか「相互の連携により教育の質向上・充実させることと同時に企業の発展を目指して人的資源の交流を図り共通の目的を達するため」に包括連携協力に関する協定が締結されました。

これまでに「インターンシップ」、「求人活動」、「学内企業説明会」などさまざまな連携が行われてきました。さらに2017年度後期に開講された「キャリア開発演習」において特別講義を企画し、沖縄県内におけるウェディング業界の現状や今後の動向、また業界内で活躍する上で必要な知識やスキル、仕事に対する心構えなどについて講話していただきました。学生が多角的な視点から沖縄を知り、世界を学ぶことを目指しております。これまでの活動に加え、新たに包括連携協力を結ぶことで学院の教育課程の編成について意見をいただくなど、より継続的かつ組織的に教育の質向上・充実の課題に適切に対応すべく、今回の協定締結に至りました。

包括連携協力について、小岸社長は「私どもは香港、台湾、上海に支店を設けるなど、海外での契約獲得に力を入れるが、通訳の不足で契約を制限する例もある。リゾートウェディング業界の発展は人材育成にかかっている」また、年間1,500組以上も外国人旅行者のウェディング成約があることを挙げ「現場を見て、沖縄の実情や企業というものを知ってほしい」と要望があり、友利学長は「本学の強みとする同時通訳は歴史もあり環境も整っている。夏休みに開催される『同時通訳集中講座』には領事館関係者、OIST職員など実社会において英語を使用している受講生も多く、社会でも十分通用する教育内容である」と説明しました。同時に観光産業に従事する上で必要な「ホスピタリティ精神」は本学掲げる、スクール

モットー(仕えられるためではなく仕えるために(マタイ20:28))とも共鳴し、双方が求める人材像であることが確認されました。



沖縄キリスト教短期大学 第三者評価「適格」認定

沖縄キリスト教短期大学は、一般財団法人短期大学基準協会による2016年度第三者評価の結果、適格と認定されました。

本学はこれからも、キリスト教精神に基づいた学校教育を施し、教育研究の資質向上に努めて参ります。



図書館がとっても楽しい!!授業で重要な場所になってくるよー (英コミ4年 よーし)



私のオススメの場所はシャロームにあるカフェテリアです。マキさんが作るコーヒーマスターはとっても種類があって、すごく美味しいです。先生方にも生徒にも人気があるので、ぜひ行ってみてくださいね。(英語科1年 宮城未来)

キリスト教教育活動

～宗教部～

クリスマス礼拝・祝会

飼い葉桶に眠るキリストを迎えて

2017年12月22日

2017年12月22日、仲里朝章記念チャペルに於いて、クリスマス礼拝を執り行いました。礼拝は、オーケストラとオルガン演奏、讃美歌の美しい調の中行われました。今年は、特に3名の声楽の専門家による独唱も加わり、より華やかなものとなりました。イエス・キリストの聖誕物語がさまざまな言語で朗読され、朗読の合間には聖歌隊と「キリスト教芸術」受講生によるキャロルや、保育科の学生有志による手話も行われました。多くのキャンドルが灯る中、宗教部長によるメッセージ「飼い葉桶に眠るキリスト」が語られ、被災地支援や福祉活動に取り組む団体へ尊い献金が捧げられました。学生会や教職員による積極的な協力もあり、多くの方々とともにクリスマスの意味を受け止めることができました。

クリスマス祝会では、体育館に場所を移し学生会長と学生宗教委員の司会のもと、持ち寄りの料理を併せた食事を囲んで、来場者全員が楽しい交流と語らいの時を持ちました。



2017年度サマー聖書キャンプ報告 自分自身を愛するように

2017年8月22日～23日

一日目は、沖縄戦を経て、現在の基地問題と新基地建設につながる流れを学びました。辺野古の基地工事に抗議する人々を見て、沖縄の現状を直視し多角的に考える機会になったと思います。開会礼拝では本学の建学の精神について学び、普天間飛行場から伊江島へ移動して「ヌチドゥカカラの家」を訪れました。非暴力による土地返還運動を行った故・阿波根昌鴻氏の活動と信念について、また、伊江島と基地の歴史や平和運動について謝花悦子氏（「ヌチドゥカカラの家」館長）から学びました。夜は「土の宿」に泊まってBBQと花火を楽しんだ後、障がいがありながら芸術活動をされている木村浩子氏（「土の宿」代表）と懇談の時を持ちました。二日目は、金城盛和氏のガイドで戦時の跡地を訪れ、伊江島タッチューに登りました。本島に戻り、辺野古での基地建設抗議活動に参加しました。埋め立てに使用する碎石の搬入が行われ、阻止しようと座り込む人々を排除する機動隊を見てショックを受ける学生もありました。最後にキャンプ全体のシェアリングと、川西康裕先生（保育科教授）による閉会礼拝でキャンプを終了いたしました。



伊江島タッチューに登る



伊江島「ヌチドゥカカラの家」



謝花悦子氏よりお話を聞く



辺野古反対運動参加者に話を聞く

前期・後期キリスト教週間

沖縄と東京から信仰を問う

前期：2017年 4月17日～21日
後期：2017年10月23日～27日

前期キリスト教講演会では、神愛バプテスト教会牧師の饒平名長秀氏をお迎えして、「無くてならないもの」という題でお話をいただきました。沖縄のキリスト者はどのように在るべきかを真剣に思索してこられたこと、沖縄差別に苦しんだ先生ご自身の歩みと、キリストの福音の体験が語られ、学生たちも真剣な顔で耳を傾けていました。

後期キリスト教講演会では、キリスト者の映画監督・プロデューサーの山田火砂子氏をお迎えし、「泣いて笑って85年」という演題で講演していただきました。山田監督がこれまでに携わった映画にまつわるお話や、映画を作ることの難しさや苦労や喜びとともに、ご自身の平和に対する思い、キリスト者としての信仰についてもお話しくださり、社会、戦争、平和、人間の問題を取り扱う監督の信仰の思いが感じられました。その他、一週間を通してランチ会や映画上映会などのプログラムも実施し、多くの学生・教職員の参加がありました。



饒平名長秀氏（前期キリスト教講演会）



山田火砂子氏（後期キリスト教講演会）

アジア・フрендシップ・アワー

ナガランドからの牧師とともに

2018年2月11日

今年度は、学生と教職員15名の参加者とともに沖縄第一バプテスト教会（うるま市赤道）の礼拝に参加しました。この教会は、現在改装された倉庫で礼拝が営まれています。ギターやドラムを使ってエネルギーに捧げられる賛美や、野原愛牧師の力強い説教は、学生たちにとって新鮮だったようです。また、私たちも特別賛美として器楽演奏と讃美歌を披露し、教会員の皆様から暖かく心のこもった拍手が送られました。

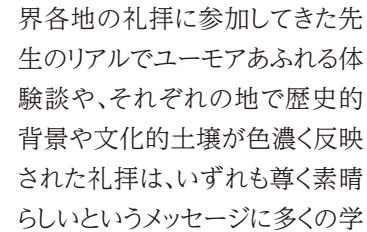
礼拝後は、本格インドカレーやワッフルなどをいただきながら交流のひと時を持ちました。学生も教職員同士も所属を超えて会話を楽しみました。午後は、ヴェセコイ・テツエオ牧師より、出身地であるナガランド（インド）をはじめ世界の教会の礼拝スタイルについてお話を聞きました。世界各地の礼拝に参加してきた先生のリアルでユーモアあふれる体験談や、それぞれの地で歴史的背景や文化的土壌が色濃く反映された礼拝は、いずれも尊く素晴らしいというメッセージに多くの学びを得ることができました。



ワッフルを振舞ってくださる様子



礼拝に参加する様子



本学学生たちによる特別賛美の様子



ヴェセコイ牧師のお話
（左は通訳をされる野原牧師）



本学学生たちによる特別賛美の様子

学生宗教委員会（HOPE）について

キリスト教信仰に立つ、本学ならではの大切な学生組織です。毎週月曜日に行われる礼拝の司会や、礼拝音楽の演奏、キリスト教行事の企画・運営その他のキリスト教関連行事を行う学生組織です。礼拝の演奏では、ピアノ・チャーチオルガンなどの楽器の操作を学んで演奏する学生もいます。また、キリスト教行事ではコンサート、演劇、料理などのプログラムを行っています。学生宗教委員のそれぞれの特技や個性を生かして活動しています。クリスチャンでない学生も参加歓迎です。今後もさまざまな学生に関わってみたいと思います。



月曜礼拝について

本学院では、毎週月曜日（午前9:50～10:30）に礼拝を行っています。ネイティブスピーカー教員による英語礼拝や学生企画礼拝なども実施しており、学生が司会やチャーチオルガン等の奏楽に関わっています。また、日本語から英語への同時通訳が教員指導の下行なわれます。礼拝は神を賛美し、祈り、聖書の言葉を聞く時ですが、それはまた、キリスト者でない人にも生きる意味を問う時でもあり、キリスト教主義教育の根幹となる大事な時間です。



イギリス文化を学ぶ

オックスフォード大学サマープログラム



Literature Lecture

オックスフォード大学サマープログラムを2017年9月16日から25日に実施しました。初年度となる今回は6人の参加学生がChristopher Valvona先生に引率され、先生の母校であるオックスフォード大学内の、セント・エドモンドホールのキャンパスで、イギリスの文化を中心に学びました。この研修の参加者はオックスフォード大学の寮で寝泊りし、オックスフォード大学という環境で英国の歴史や文化などについて学び、さらにオックスフォードという特別な場所の歴史や著名な人物についても学びました。大学や街の見学のほか、周辺の地域にも視察に行くという特別なものになりました。

午前中のプログラムでは、「オックスフォード大学と教育、英文学とオックスフォード縁の作家、歴史、貴族と階級システム、イギリスポップカルチャー」などについてすべて英語で学びました。その後のQ&Aでは、授業の内容チェックが行われました。

午後にはオックスフォード地域を中心に視察や体験を通し、午前中に学んだものを深く理解するものになりました。その内容としては、大学内見学、数多くの文豪を生んだクライストチャーチの見学(映画ハリー・ポッターのロケ地)や、アリスストア、ブレナム宮殿ツアー、アフタヌーンティー体験やシャーロックホームズ観劇も行われました。また、オックスフォード名物の遊びである船こぎなども体験し、オックスフォードライフを満喫しました。

参加した学生からは、「学習意欲が増した」、「語学や異文化理解能力が向上した」、「自己の成長につながった」などの報告があり、この海外研修の記念すべき初年度プログラムは、成功裏に終えることができました。この海外研修は本学独自の貴重な体験プログラムです。今後もより多くの学生がこの研修に参加し、様々な事を学び体験され、国際感覚を身につけ将来に役立てることを期待しています。



Christ Church Great Hall



Blenheim Palace



Group Dinner



Punting



Front Quad



Graduation Ceremony



Radcliffe Camera

宜野座村の沖縄移民調査

フィリピン移民者に聴く戦争体験

「いくら教育が大事といっても、親子がばらばらに暮らすのはどう思う?」83歳の女性(フィリピン生まれの沖縄移民2世)は学生に向かって話を始めました。彼女の両親は麻産業に従事し、彼女は小学生までミンダナオ島で暮らしていました。両親は子どもたちに教育を受けさせたいと願い、姉と二人だけで戦時中に沖縄の親戚に預けたようです。1時間に及ぶ聞き取りの最後には、女性が学生一人ひとりと握手を交わしながら「聴いてくれてありがとう、戦争は本当にダメ、親子は一緒に暮らすのが大事」という言葉と手の温もりは、今も心に響いています。

この調査は、2016年に制定された「世界のウチナーンチュの日」(10月30日)に併せ11月に開催された宜野座村漢那の沖縄移民調査で、ゼミ生と共にフィールドワークの一環として参加しました。



教職課程

教育を担う人材の育成は本学の使命

今年度は、14人の学生が本学の教職課程を修了しました。卒業要件を大幅に上回る単位数の取得が求められるため、教職課程の履修は決して容易なことではありません。特に4年次には、就職活動や教員採用試験対策と並行して、教育実習や卒業研究にも取り組まなくてはならず、苦しい思いをした学生も少なくなかったと推察されます。困難に直面しながらも、最後まで諦めることなく教職課程における学びを完遂した学生の皆さんには、心から賛辞を贈りたいと思います。グローバル化、情報化、人工知能の進化が加速度的に進展している今日、人材の育成を担う教育の重要性がより一層高まっています。そして、その教育に携わる人材の育成は、教職課程を有する大学に委ねられています。今後も、実践的指導力を有する人材の育成・輩出に努めて参りたいと思います。



キリ学に入學したことで英語力が高校の時に比べるととても上がっていると思います。(英コミ1年 みやざと)
先生とのキリが近くて、友だちみたいに楽しいし、クラス規模も小さいから勉強しやすいよ。(英コミ2年 伊佐 エリカ)

海外ボランティア実習

フィリピンでの学び

ゴミ山のむせるような匂い。排ガスの目を刺すような刺激。鳴り止まないクラクション。吹き出す汗。9月に行われるフィリピンでの実習は、本学の海外研修の中で最も過酷です。2017年もマニラとその郊外を中心に都市貧困の現状を学び、ボランティア活動を行いました。火事や台風などの自然災害に突然住処を奪われる人々。開発という名の下に立ち退きを余儀なくされ、不便な暮らしを強いられる人々。その現状を目の前にして、学生たちは呆然と立ち尽くします。フィリピンの経済格差は、世界の



縮図のようなものなのですが、初めて直面するその現実には、皆しばらく無口になります。貧しいながらも笑顔の絶えない子どもたち。どこへいっても寄ってくるその人懐っこさが、学生たちの心を癒します。少しずつ、目の前のその最も小さき者へ何ができるのか、どう寄り添えるのか、を考え始めます。聖人マザーテレサの設立した施設で実際にボランティアを始める頃には、傷つき弱った子どもたちや老人を前に、今まで見せたことのないような輝く笑顔をみせるのです。たった一週間の実習ですが、毎日が驚きや感動、涙や笑いで、まるで感情のジェットコースターに乗ったような感覚です。



沖縄キリスト教学院大学大学院

大学院教員紹介

英語教育が専門の大城直人先生と、異文化コミュニケーション学が専門の仲里和花先生をご紹介します。これから本大学院の二つの領域を牽引されるお二人にいろいろと質問してみました。



沖縄キリスト教学院大学
人文学部 英語コミュニケーション学科
大学院 異文化コミュニケーション学研究科 准教授

大城 直人

Q1.本学で働きたいと思われた理由は何ですか?

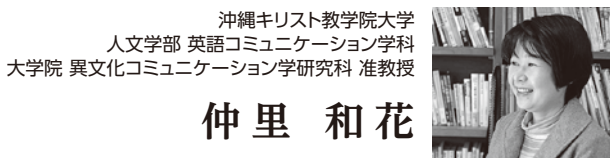
(大城) 何よりも、本学がキリスト教の精神に根差した高等教育機関であることが理由として挙げられます。また、英語教育に理論と実践の両面から取り組むことができることや、高等学校での教授経験を生かし、教員養成に関わることができることも、本学で働きたいと思った理由です。

(仲里) 本学は、私が通っている日本基督教団首里教会と歴史的に深いつながりがあり、幼い頃から私が身近に感じる大学でした。私自身も、キリ短の英語科を卒業しています。また、本学の建学の精神のもと、教育者としてまた、クリスチャンとして沖縄の教育現場で働けることは、大変、意義のあることだと思いました。

Q2.クリスチャンとしての信条を教えてください。

(大城) 「人は皆、神の子であり、誰もが神から愛されている尊い存在である」というのが、私のクリスチャンとしての信条です。

(仲里) 「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」、「隣人を自分のように愛しなさい」 マタイ:22:37~39。イエス・キリストの愛の精神を見習い、私も学



沖縄キリスト教学院大学
人文学部 英語コミュニケーション学科
大学院 異文化コミュニケーション学研究科 准教授

仲里 和花

生たちに愛を持って接していけるように努め、この信条を目標にしたいと思います。

Q3.尊敬する人を教えてください。

(大城) ハワイのモロカイ島で、社会から見捨てられ隔離された生活を強いられていたハンセン病患者の魂の救いのために人生を捧げられた聖人ダミアン神父が、私の尊敬する人です。自身もハンセン病に罹患してしまっていますが、キリストに倣い、「友のために命を捨てることほど大きな愛はない」という聖書の言葉を実践されたところが敬愛の理由です。

(仲里) 上野千寿子さんは著書『生き延びるための思想』の中で、国家暴力など社会の中の暴力的な構成=男仕立ての「死ぬための思想」を批判し、「弱者が弱者のまま尊重されることを求める思想」としてのフェミニズムの立場から、人間らしく生きるために今何が問われているのかを論じています。常に女性やマイノリティーの視点にたって、社会を批判的に読み解き、論理的に議論していく彼女の姿勢に、いつも感銘を受けています。

英語科 English Camp

英語科は毎年「English Camp」を行っています。English Campは2つのメインプログラム(English SkitとTreasure Hunting)から構成されており、5月17日(水)～19日(金)に行われました。学生は「英語」というコミュニケーションツールを使いアクティビティやお互いの交流を深めました。キャンプ初日の17日は、大学内のキャンパスで、アドバイザーグループに分かれてのEnglish Skitコンテストを行いました。各グループは与えられたテーマのもとに、アイデアを出し合って、5～6分程の短い英語劇を作成し、先生方や2年次の先輩方がそのパフォーマンスを審査しました。ユーモアにあふれた劇、そして英語のジョークが飛び交うなど、学生は英語を使いながら親睦を深めていきました。2日目以降は渡嘉敷島へ移動し、海洋研修やフェローシップアワーで学科の垣根を越えた交流があり、同年代の保育科や英コミの学生と親睦を深めることができました。3日目は英コミの学生を交えて、Treasure Huntingを英語で行いました。学生は、英語のなぞなぞを解読して、その答えを探すアクティビティと、各拠点に立っている先生方へ英語の質問をするアクティビティを同時に行い、順位とタイムを競いました。英語科の学生にとって、この3日間は有意義な時間を過ごせたと思います。



保育科 在学生と卒業生交流会 2017

卒業生と交流を深めてもらうことを目的に行われている「在学生と卒業生交流会2017」が、7月1日(土)に沖縄キリスト教学院ユニオンで開催されました。2年次は3月に施設実習、6月には保育所実習が終了した直後ということもあり、保育士としての仕事についてより実感を持って考える時期になりました。保育園からの求人情報などを目にすることも増え、期待や不安を抱えている学生も多い中、卒業した先輩方から力強いアドバイスいただきました。

この日は、保育所や幼稚園、また認定子ども園などで活躍している先輩たちが参加してくれました。卒業してもかわいい後輩のために駆けつけてくれるのは本当にうれしいことです。3月に本学を卒業したばかりの先輩たちもいて、そんな彼・彼女らからの情報は新鮮で有意義なものが多く、学生たちはアドバイスに真剣に耳を傾けていました。「ピアノは今でも職場で残って練習しているよ。絶対にやっていたほうがいい。」「季節を考えて、子どもたちの作品も取り入れながら、園の壁面を飾ることが楽しいよ。」といった話題から、普段はなかなか聞きづらい給与や待遇の話まで話題は広がり、あっという間に時間が過ぎて行きました。保育士として誇りを持ち、仕事をしている先輩たちの姿と言葉は、学生たちの背中を優しく押してくれたことでしょう。来年はこの2年次たちが後輩たちのために、立派な保育士・幼稚園教諭として働く姿を見せに来てくれることと思います。



「第8回総合教育系特別公開講座」報告

総合教育系 沖縄批判と沖縄アイデンティティについて考える

2018年1月18日

今回の特別講座では、長年、沖縄の歴史教育と平和教育に貢献してこられた新城俊昭先生(沖縄大学客員教授、本学非常勤講師)をお迎えしました。講演において新城先生は歴史の中で「沖縄は同じ日本として扱われてきたか?」という問いを提起されました。特に1897年の琉球処分、明治期に始まった皇民化教育、沖縄戦、戦後の米軍統治政策そして復帰後の日本政府の政策の影響により、沖縄のアイデンティティが喪失されていった経緯を緻密な分析に基づいて解説されました。特に、沖縄戦時の日本軍の作戦の本質が沖縄の防衛ではなく、「日本の国家体制の護持」にあることを強調されました。本講演会は、私たちが本質を見据えた客観的な歴史認識の重要性を再認識する上での好機となりました。同時に、それは大学教育を担う私たちに歴史の本質を見つめ、それを若い世代に伝えることの意義も想起させてくれる良い講演でした。



キリ短、キリ学ではOralの授業がとてもタメになると私は考えます。Oralではネイティブの先生と英語のみで授業が進められるのでとても力になります。Oralはオススメです。(英語科1年 屋比久 大雅)

学内英語弁論大会

2017年11月11日

2017年11月11日(土)に、第37回目となる学内英語弁論大会が行われました。今年度は英語科から2名、英語コミュニケーション学科から6名の計8名の学生が参加しました。この英語弁論大会に参加した、全ての学生の英語力が高だけでなく、多岐にわたった話題にも圧倒されました。全てのスピーカーが、過去の貴重な体験を振り返り、考えや感情を共有しました。母語である日本語で語るのも難しい内容を、英語でやり遂げた彼らのパフォーマンスには、感動を覚えたと思います。

今年度1位を獲得した英コミ2年次の砂川桜さんのスピーチは「Personal Identity」で、幼いころ、自分のアイデンティティで葛藤しつつも、それを乗り越えて今の自分が存在するという内容でした。砂川さんは、英語力や内容だけでなく、アイコンタクトやジェスチャーも自然体でした。審査員による満場一致で1位を獲得しました。2位は短大英語科1年次の島袋友花さんによる「Why I recommend traveling abroad」でした。偏見に恐れず前に進むという内容でした。彼女の大胆な実体験には驚かされましたが、皆感動したと思います。また3位の英コミ3年次島袋里穂さんの「Racism in Japan」では、少数派グループへの差別について語っていました。最近起こった日本での事件も取り上げながら、差別を無くすべきだと強く訴えていました。

ハイライトシーンを Youtube で視聴することができます。3 人の受賞者たちのスピーチをフルバージョンでお楽しみください。

<https://www.youtube.com/watch?v=jl77LBQSVi0>



学内英語弁論大会結果

第1位	砂川 桜	英語コミュニケーション学科 (2 年次)
	Personal Identity	
第2位	島袋 友花	英語科 (1 年次)
	Why I recommend traveling abroad	
第3位	島袋 里穂	英語コミュニケーション学科 (3 年次)
	Racism in Japan	

高校生英語弁論大会

自らを見つめる力、そして溢れだす熱意が感動を与える

2017年12月9日

「沖縄の高校生のレベルがこんなに高いのか」と正直驚き、感心したのと同時に、深く感動を覚えた英語弁論大会でした。このような弁論大会では、丹念に作り上げられた原稿を何度も練習することが必須です。この舞台上に上がるまでに発表者たちはどれほど努力したのかを想像すると、大学生も頑張らねばと身が引き締まる思いがしました。しかし、高校生の発表者たちのスピーチを聞いてより印象的だったのは、英語の原稿の素晴らしさやスピーチの練習量、技術力よりも増して、その瞳の奥にあった自信、熱意、ミスしてもあきらめない姿勢にあったのではないかと思います。この英語弁論大会の目的は「自らの考えや意見を英語で発表する場を提供し、コミュニケーションの能力を高めること」とあります。高校生たちのスピーチの内容は、自らの家族だったり、沖縄という生きる場所だったり、公の場で語ることが必ずしも容易ではない内面的な部分まで踏み込んだものもありました。自分自身や自分の生きている場所、コミュニティーや歴史文化をまなぐす作業が、発表者たちに自信を与え、その熱意こそがコミュニケーション能力に必要不可欠であると再認識することができました。

高校生英語弁論大会結果

第1位	知念 瑞末 那覇国際高等学校 3 年	周りと"違う"自分に Being Different from Others	Best Impromptu 賞*	伊波 妃菜 向陽高等学校 1 年	世界へ響け 三線の音色 Bringing the Sounds of Sanshin to the World
第2位	豊田 真菜 沖縄尚学高等学校 1 年	みんなが尊重される社会 Everybody is Different and Deserves Respect	学長賞	與那原 杏菜 知念高等学校 2 年	過去からの教訓 Lessons from the past
第3位	兼城 夏穂 球陽高等学校 1 年	ウチナンチュ魂 Uchinanchu Spirit	*Best Impromptu 賞: 英語による質疑応答が最も優れていた出場者に贈られる賞		



ティーチング・アワード及び授業参観について

2017年度より全学FD委員会において、学生による授業改善・授業評価アンケートなどに基づき、教育実践に顕著な成果をあげた教育職員(非常勤講師を含む)に対し、その功績をティーチング・アワードとして顕彰するとして毎年度、各大学から1名を選出し、表彰状と副賞(奨励金5万円)を授与することを決定しました。また当該教育の実践方法等を全学的に広め、教員の意欲の向上および教育改善の活性化を図るために、ティーチング・アワード受賞者による公開授業を行い、全専任教員を対象に授業参観と授業検討会の機会を設けました。

2017年度 ティーチング・アワード 受賞者	沖縄キリスト教学院大学 人文学部 英語コミュニケーション学科 新垣 誠 教授 公開授業:「沖縄からみるグローバル化」	沖縄キリスト教短期大学 保育科 赤嶺 優子 准教授 公開授業:「視聴覚教育」
------------------------------	---	---

FD=ファカルティ・ディベロプメント(Faculty Development)とは、「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称」
出典:文部科学省ホームページ(<http://www.mext.go.jp/>)

GOOD キリ短に入って一番楽しかった事は、渡嘉敷研修です。1泊2日ですが、皆との距離が縮まった研修になりました。ワイワイプラザ in キリ短という取り組みもすごく楽しくて、やりがいのあるプロジェクトです。(保育科1年 仲村 亜加梨)

国際交流活動

ハワイ研修・海外幼児教育研修

2018年2月12日～28日



本研修は、協定校「カウアイ・コミュニティ・カレッジ(米国ハワイ州)」へ訪問し、英語のトレーニングはもちろんのこと、現地学生との交流、ハワイ伝統文化の体験学習もあり、カウアイ島の人々の心のこもったおもてなしに触れながら、他者理解力を身につけます。「ハワイ研修」は、英語コミュニケーション学科・英語科の学生が参加し、ハワイの空港やリゾートホテル、観光局を訪問し、観光ビジネスについて学びます。「海外幼児教育研修」は保育科学生が対象となっており、ハワイの幼児教育施設を見学し、子どもたちと交流します。

参加した学生からは「自分の英語力を試せて良かった。コミュニケーション力がついたと思う。」「もっと日本や沖縄の文化を学び、大切にしたいなと思った。」などの感想がありました。本研修参加後、ハワイへの関心を深め、長期留学を開始した学生もあり、学生の「世界」を広げるプログラムとなっています。

台湾研修

2017年8月19日～9月1日

協定校の「長栄大学(台湾台南市)」を訪問し、地理的特性が沖縄と類似している台湾の歴史・文化・言語を学ぶことを目的とした研修です。プログラム中使用される言語は英語が中心となっており、「英語で台湾を学ぶ」点は、本研修の大きな特徴のひとつといえるでしょう。中国語学習をはじめ、台湾の歴史・文化に関する体験授業や、現地学生との交流とホームステイ、博物館や文化施設の見学など多彩なプログラムが用意されています。「もっと英語と、中国語を勉強しようと思った。」「台湾が大好きになった、世界が広がった」「他の国の文化を知ることの面白さや、日本の文化を伝えられたときの達成感が得られた。」また、「もっと沖縄のことについて勉強し、いろいろなことを相手に伝えることができるコミュニケーション能力を身につけたいと思った」など、参加した学生たちから多くの感想が寄せられ、満足度の高い研修となりました。



海外協定校より ブライアン・山本教授 ご来学

2017年8月2日・4日

ハワイ大学カウアイ・コミュニティ・カレッジ(米国ハワイ州、以下KCC)は、20年以上の交流がある協定校のひとつです。

例年海外研修や長期留学などで多くの学生がKCCを訪れ、ブライアン・山本教授は滞在する学生に対し、献身的に接して下さっています。今回、山本教授は2日間にわたりご来学されました。1日目は、本学教員との会食があり、今後の国際交流事業について、多くの提案がなされました。2日目は海外研修に参加した学生、教員との茶話会を開き、再会を喜び合いました。研修の思い出を懐かしく振り返り、温かな語らいのひと時となりました。「今回も充実した訪問の機会となりました。」と、山本教授より感謝のお言葉をいただきました。



ix 国際交流友の会の活動

沖縄の歴史・文化学習会 2017

2017年7月1日

「琉球王国の『国際交流』を学ぶ」ツアーでは、地元にいると意外と行かない県内史跡などを訪問しました。当日は快晴のなか満員御礼!外国人留学生も含め総勢25名の学生が参加しました。午前は「福州園」や「孔子廟」「天妃宮・天尊廟」を訪問し、ランチタイムはレストランで、本格中華料理に舌鼓を打ちました。午後は首里城公園にて、「首里城跡」「園比屋武御嶽石門」の世界遺産を見学しました。最後に本学で反省会を行い、感想を参加者でシェアしました。沖縄の歴史や文化を再発見する機会となりました。



「沖縄ボリビア協会」会長が 学長を表敬訪問

2017年5月12日

ボリビアへの派遣事業「ホームステイ En Bolivia」に本学学生の仲村明さん(英語コミュニケーション学科3年次)が参加者として選出されたことを受け、沖縄ボリビア協会の伊佐仁会長が友利学長を表敬訪問され、仲村さんの激励とともに、懇談のひと時が持たれました。



インド ナガランド州 教育機関関係者の 皆さまが学長を表敬訪問

2017年5月26日

インドはナガランド州の教育機関の皆さまが友利学長を表敬訪問されました。学長との懇談においては、ナガランド州の歴史文化について紹介があり、将来的な交流事業についても展望が交わされ、和やかなひと時が持たれました。



カナダ人青年との異文化交流会

2017年7月13日



カナダはトロントの日系セブンスデーアドベンチスト教会さまから本学との交流を持ちたいとご要望をいただき、カナダ人青年団の皆さまが来学されました。約20名の青年団は多様な人種で構成され、中には沖縄にルーツを持つ2世3世の方もおりました。カナダは人気留学先の国のひとつでもあり、本学からも40名近くの学生が参加し、大盛況となりました。参加した学生からは「本当に楽しかった。感動した!」との感想があり、素晴らしい国際交流となりました。



中国大学生友好交流訪日団との 昼食交流会

2017年9月14日

一般財団法人大学コンソーシアム沖縄主催の「中国大学生友好交流訪日団との昼食交流会」が実施され、本学の学生を含めた県内の大学生が参加し、中国福建省の大学生との交流会を持ちました。美味しい昼食を味わいながら、日本語、英語、中国語でのコミュニケーションがなされ、学生たちは友情を育みました。



留学生等親善交流会 県内留学生大集合!

2017年11月30日

「沖縄地域留学生交流推進協議会」が主催する本交流会は、県内の外国人留学生や、日本人学生、関係者が参加する大規模なパーティーで、本学からも多くの学生が参加し、国際交流を楽しみました。留学生代表あいさつでは、イ・ブトゥ・ダンギン・アルタセガラさん(英語コミュニケーション学科3年次)が堂々とした日本語でのスピーチを披露し、拍手喝采となりました。



学生支援

■ 外間なるみ様より寄付金贈呈

2017年4月18日

「学生のために役立てて欲しい」と、外間なるみ様(光文堂コミュニケーションズ株式会社取締役)より、寄付金の贈呈がありました。

ご主人である故外間政春様(同社代表取締役社長)の社会貢献の意志を引き継ぐとともに、「娘(卒業生)が大変お世話になった大学で、後輩たちの役に立って欲しい」というお礼の思いを込めて、学長に手渡されました。学生のために有効に使わせていただきます。ありがとうございました。



■ ライオンズクラブ国際協会様より 外国人留学生へ奨学金贈呈

2017年7月27日

ライオンズクラブ国際協会の識名安信理事長が、外国人留学生対象の奨学金の贈呈のため、ご来学されました。今回、インドネシア出身のイ・プトゥ・ダンギン・アルタセガラさん(英語コミュニケーション学科3年次)が採用され、贈呈は、友利学長、上原明子国際平和文化交流センター長の立ち会いのもと行われました。識名理事長より、「インドネシア、外国と沖縄のかけ橋となっていたきたい」と、激励をいただきました。この度のご芳志、心より御礼を申し上げます。



■ 金秀グループ様より 寄付金贈呈

2017年5月25日

2017年5月25日創業70周年を迎えた金秀グループ(呉屋守将会長)様より人材育成支援のための寄付金が贈呈されました。創業70周年寄付金贈呈式には、学長の代理で事務局長代行の與那原馨が出席し、呉屋会長より寄付金の贈呈を受けました。この思いに込め、本学では学生への修学支援に活用していきます。ありがとうございました。

■ 2017年度 前後期学内奨学金授与式

前期:2017年7月20日/後期:2017年12月21日

前期奨学金は、大学28人、短期大学29人の計57人が採用されました。奨学生を代表し、英語コミュニケーション学科3年次の阿波根昌吾さんが「感謝の気持ちを持ち、周りの方々のご期待に沿えるよう、勉学に励んでいきます。」とあいさつを述べました。後期奨学金では、大学院3人、大学27人、短期大学18人の計48人が採用され、英語コミュニケーション学科3年次の城間典子さんが奨学生代表としてあいさつをしました。後期奨学金は、本学の後援会をはじめ、同窓会、企業・個人の方々からのご支援により奨学金となっています。ご寄付をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。



■ 新しくなった学習支援センター

学習支援センター(LSC)は、支援室を学生ユニオン奥の明るい部屋に移動し、2017年5月1日にリニューアルしました。各学科と系のセンター員(各1人)からなる委員会を新設し、その他の専任教員のオフィスアワーも支援時間として利用可能とするなど、学生の学びをバックアップする組織力の強化を図りました。その結果、利用者数は着実に伸び、LSCは一般の学生にとっても憩いの場となってきています。2018年度からは学生チューター制度を導入し、上級スキルの学生たちが英語学習やピアノ練習などをサポートします。学びをサポートする組織として他の学生と教職員からの信頼を得て、いつでも気軽に、そして効果的に利用するような機会と場を提供していきたいと思います。



★ キリ学祭 第53回「Just be you～自分らしさに誇りを～」

キリ学祭(2017年11月11日、12日)

英コミ2年次(2017年度学生会長)

新城 桜子

第53回キリ学祭は『Just be you～自分らしさに誇りを～』をテーマにダンス、歌、エイサー、フラダンスなどを通して「自分らしさ」を発信している沖縄出身の方々に出演していただきました。誰もが楽しめるように子どもたちも楽しめる大道芸人ショーや、体育館にミニ保育園を設置しました。夏休みから本格的に始まった準備はお互いアルバイトや勉強時間の合間を見つけ協力し取り組みました。1人で抱え込んでいても手を差し伸べて一緒に前へ進んでくれた仲間は私の宝物です。学生会メンバーだけでなく先輩や先生方、他校の学生とつながれたこともいい経験だったと思います。学内アーティストの出演も多く同世代の活躍をみて自身の成長につながる学祭でした。協賛してくださった企業様、Ms,Mrの演出を華やかにしてくださった千代田ブライダルハウス様、出演者の皆様、スタッフの皆様、足を運んでくださったお客様がいたからこそ色あせることない最高の時間を創ることかできました。この場を借りてお礼申し上げます。ご支援ご協力ありがとうございました。



サークル 紹介 Fun!

本学には、スポーツや文化、語学、音楽などさまざまなフィールドの部・サークルがあり、充実したキャンパスライフを送ることができます。集団の中で「個」の力を発揮することを学び、社会性や自主性を身につけるサークル活動で、皆、楽しみながら大きく成長することができます。たくさんの仲間と一緒に学生生活を充実させてみませんか？

WLO サークル

これまでの清掃活動を通して

WLO(We Love Okinawa)サークルは、沖縄を住みよいきれいな島にしたいという学生の気持ちが集まり、2006年5月に立ち上がったサークルです。清掃活動などは、西原町を中心に行ってきました。

2017年12月に本サークルの清掃活動は、100回となり、回収したゴミの量は、1563.9kg(第43回活動から第100回活動まで)となります。この結果を見ると、身近に数多くのゴミが散乱していることがわかります。ポイ捨て等のゴミがなくなることを心から祈りつつ、今後もWLOサークルは清掃活動を続けていきたいと思っています。

最後にこれまで清掃活動に参加した皆さんに心から感謝します。これからもよろしくお願いします。



第100回活動の様子

コイノニアサークル あつまれ！音楽大好き人間！

クリスマス礼拝・祝会、オープンキャンパスのアトラクションなど、学内のさまざまな場所で讃美歌を歌っています。また、施設等を訪問して讃美歌や演奏を披露することもあります。静かな曲や元気な曲、ゴスペルや沖縄民謡などメンバーが歌ってみたい讃美歌を練習しているので、歌うことが好きな方、楽器演奏が好きな方を募集しています。イベントに合わせて随時練習をしています。関心のある人は、誰でもぜひチャペルにお越しください。



児童文化研究サークル

みんな笑顔になれる児童文化研究サークル

私たち児童文化研究サークルは、保育園やさまざまな施設、イベントに赴き、いろいろな色を使ったフィンガーアクションや、お人形が踊りだすボードビル、人形劇などをして主に子どもたち向けに公演をしています。公演を見てくれる子どもたちは、とても笑顔で喜んでくれます。その笑顔を見られることに私たちはとてもやりがいを感じることができ、私たちも笑顔になることができます。保育士、幼稚園教諭を目指している保育科はもちろん、英語科などの他学科の学生も大歓迎です！一緒に笑顔あふれるサークルで活動しましょう！



硬式野球部 女子選手誕生とOBからの素敵なおプレゼント！

2シーズン目の今年、硬式野球部に初の女子選手 名護晴香さん(英コミ2年次)が誕生しました。4月9日の公式戦に代打で途中出場し、対戦投手との『女子対決』は球場を大いに沸かせ、その模様は翌日のニュース番組や新聞に取り上げられました。その翌月には、友利学長を表敬訪問した硬式野球部OBの阿波根昌孝さん(英コミ卒)が初めての給料で購入したバットを野球部へ寄贈しました。贈呈式では「まったく経験のなかった野球を通じて自分自身が変われた。野球部のメンバーにはとても感謝している。就職もできたのでその恩返しをしたい」と寄贈の理由を述べ、部員たちは感謝の意を表すとともに、公式戦初勝利を誓いました。



阿波根さん(右から2人目)

学生の活躍!



ベジエ 培材大学(韓国)のサマースクールに参加して

2017年7月31日～8月18日

仲村 渠 まい
英語コミュニケーション学科 4年次



私は以前から韓国の文化や語学に興味があり、この機会に第三言語として韓国語の習得に挑戦したいと考え、3週間のサマープログラムに参加しました。また、このプログラムには世界各国から多くの参加者があるとのこと、国内外に友達を作れるチャンスということも魅力的でした。期間中は午前中に韓国語の授業があり、午後は観光などのフィールドワークが中心でした。多くのフィールドワークの中で1番印象に残っているのが、歌手[PSY]のコンサートです。みんなで歌ったり踊ったりしたあの時間は本当に忘れられない思い出になりました。語学の成果としては、参加前には全くわからなかった韓国語を読めるようになりました。また、英語を使う機会も多かったため英語力も向上しました。帰国後も勉強を続け、友達と韓国語で交流を楽しんでいます。私は教師を目指しており、いつか自分の生徒を持てた時にこの経験を伝えたいと思います。



「第3回ホームステイ En Bolivia」に参加して

2017年8月3日～9月5日

仲村 明
英語コミュニケーション学科 3年次



本事業は、「沖縄ポリビア協会」主催のポリビアの沖縄移民の移住地「オキナワ」への派遣プログラムです。沖縄から遠く離れたポリビアにもう一つの「オキナワ」がある事を、私は中学生の時に知りました。そこに行きたいと願い続け、今回ポリビアへ1か月の派遣が決まりました。約32時間かけてたどり着いたポリビアの「オキナワ」は、外国なのにどこか安心できる不思議な場所でした。「オキナワ」では豊年祭があり、屋台で売られている沖縄そばをはじめ、エイサーやカチャーシーなど、沖縄の文化が残っていることに、胸が熱くなりました。また、移民1世の方から、話を聞くこともでき、大切な時間を持てました。世界のウチナーンチュについて、特に若い世代に興味を持ってほしいと考えているので、今回の経験や得たことを伝えていきたいです。



ベスト学P賞獲得!!!!

県内7大学が参加する沖縄ファミリーマートの実践型インターンシップ学P2017沖縄リーグにギリ学生11名が参加しました。

約4ヶ月に渡るインターンシップを通してマーケティングを学び、今年のテーマ「沖縄元気生活応援団」に基づいてデザート部門を担当しました。斬新な和と洋をコラボしたデザートを作りたいとインターン当初から考え、出来上がった商品は「もっちり!ざっくり!きなこdeしゅー」。学生にはなかなか経験できない商品企画、CM制作、スーパーバイザーへのプレゼン、販売促進活動などを行い、学Pメンバー全員、互いに確実に成長する事ができたと感じています。販売数量部門1位、web投票部門2位、販売個数部門4位を、そして総合評価でベスト学P賞をいただきました!



海邦養秀ネットワーク構築事業に参加して

2017年8月14日～8月29日

新垣 萌
英語科 1年次



沖縄県の青年を海外に派遣し、現地県系人との交流を通して相互の絆の強化に努め、「ウチナーネットワーク」の継承および発展に資することを目的とした県の事業です。今年度の派遣国はアルゼンチンでした。私はかつて世界のウチナーンチュ大会の動画を見る機会があり、心から感動しました。そして実際に海外のウチナーンチュに会いたいと思い、本事業に参加しました。2週間の密度の濃い研修中、アルゼンチンで出会ったウチナーンチュは、皆、心からウチナーンチュであることに誇りを持っていました。そして、イチャリバチョーデーで私たちを迎えてくれ、チムグクールの温かさを感じました。エイサーや三線の音色、おばあ言葉。全てが心にまっすぐ響いて、ウチナーの文化の素晴らしさを改めて学びました。私はこれから、沖縄の文化を学び、世界にいるウチナーンチュが沖縄に帰ってきたときに「おかえり」と自信を持って迎えることができるような、そんな誇りを持ったウチナーンチュになります。



未来への可能性

沖縄キリスト教短期大学
人文学部 英語コミュニケーション学科 2期生
新垣 七海



貴校に在籍していた頃を振り返ると、多忙ではありましたが充実した日々を送っていたと自信をもって言えます。当時の私は、ひたすら自分の興味のあることへ全力で突き進んでいるような学生でした。英語同時通訳の学習、米国大学への留学など精力的に活動していました。好きなことにたくさん挑戦できたことを幸せに思います。

私が米国大学院へ留学できたのは、貴校の先生方のおかげです。通訳勉強会を開いてくださった山里恵子名誉教授、学業や私事の悩み相談も聞いてくださった新垣友子准教授、大学院への願書や小論文添削を引き受けてくださったDaniel Broudy教授、大学院の選定に助言をくださったDavid Ulvog准教授、本当にありがとうございました。講義で関わりのなかった先生方も協力してくださり、貴校の温かい対応に心から感謝しました。卒業後に大学院へ挑戦していたため、もう学生ではない私に時間をとってもらうことを申し訳ないと感じていましたが、先生方は「応援するのは当たり前だ」と仰ってくださいました。

現在私は、米国オレゴン州の大学で教鞭を執り、日本語学やESL(English as a Second Language)のクラスを受け持っています。ノン・ネイティブでありながら、英語を教えることはとても緊張します。そんなプレッシャーを跳ね返すことができるのは、在



現状維持は衰退と同じ

沖縄キリスト教短期大学 英語科 54期生
桃原 麻衣子

現在は育児休業中ですが休業前は、支店で資産形成のお手伝いを行う「渉外係」を担当していました。お客様の自宅や勤務先へ伺ったり電話をかける事が多いので、在学中に取得した「秘書士」で学んだマナーや一般常識がとても役に立っていると感じています。資産運用には、タイミングによって価格変動があるので常に新聞やニュースで、こういった要因で相場が動いたのか…と経済情勢の勉強や情報収集をし、難しいですが、お客様にタイムリーな情報提供するため、当時は日々欠かさずチェックしていました。お客様から、「こんな運用の方法があるなんて知らなかった、私にピッタリだわ。」と言われた時には嬉しくなります。これまで経済情勢にはあまり関心がなく、さらに口下手なので最初は苦労しましたが、今ではとてもやりがいを感じています。「今のままでいいや」では仕事も勉強もハリがなくなってしまうので、皆さんもぜひ常にあるステップを視野に入れて目の前の事に取り組んで欲しいです。



4ヶ月の長男と一緒に

略 歴	
2010年	3月 県立那覇西高校 国際人文科 卒業
2012年	3月 沖縄キリスト教短期大学 英語科卒業
	4月 (株)沖縄銀行 入行
	7月 本店営業部 テラー係として配属
2015年	10月 大謝名支店 へ転勤。渉外係へ配属。
2017年	8月 出産のため産休へ。
	10月 長男を出産。現在、育児休業中。

卒業生の活躍!

学中も卒業後もいつでも背中を押して励ましてくれた先生方のおかげです。すてきな先生方に出会えたからこそ、今度は自分がそのような先生になりたいと目標にして頑張ることが出来ます。

最後になりましたが、学生の皆様へ。自分の好きなことを見つけ、全力を注ぎ、未来への可能性を信じて歩んでください。悩んだり壁が立ちはだかったりした時には、先生方へ相談してみたいかがでしょうか。学生のために時間を作り、話に耳を傾け、助言をくださることでしょう。学生の力になってくれる、親身になって考えてくださる先生方がいる所が貴校の魅力だと思います。そこを最大限に活用し、己が未来を拓いていきましょう。応援しています。



コンコーディア大学で受け持つ「日本語クラス2017」(前列左)

略 歴	
2010年	3月 沖縄キリスト教短期大学 人文学部 英語コミュニケーション学科 卒業
2016年	3月 コンコーディア大学 修士課程修了
2016年	非常勤講師としてコンコーディア大学で働く



未知の世界に立ち向かう力

沖縄キリスト教短期大学 保育科 51期生
天願 順優

私が在学中に特に学んだのは「リーダーシップ」の大切さでした。それは、学生会長としてリードして仕事を処理する能力を高める事だけではなく、先生や学生と一緒に笑い合い真剣に考えたりしながら、みんなが納得するような新たな世界を共に創っていくようにする力です。私もまだ未熟ではありますが、みんなでそうやって創りあげた学園祭や授業のディスカッションなどでの体験は、現在主任として、研修の質を高めていくことにつながっていると感じています。また、実践と研究を重ねながら毎年、ギリ短の照屋教授と日本保育学会にて発表を行っています。そして、2018年4月からは保育園での勤務を続けながら琉球大学大学院教育学部に進学予定です。

これからの時代は、未知の世界に突入すると言われています。だからこそ、学生の皆さんもさまざまな人の考えや意見に共感しながら、新たな世界を学び合う楽しさを大切にいただけたらと思います。



絵本の読み聞かせを行います

略 歴	
2009年	3月 沖縄キリスト教短期大学 保育科 卒業
2009年	4月 社会福祉法人 勇翔福祉会 輝宝保育園 就職
2016年	4月 社会福祉法人 勇翔福祉会 コスモストーリー保育園 主任

進路セミナー

2017年6月6日

全学科1年次を対象に、「進路セミナー」を6月に開催しました。
進路セミナーはキャリア支援課、学生課、国際平和文化交流センターが主催し、学生自身が大学4年間、短大2年間の学生生活をロードマップで確認しながら、就職や進学、留学などの進路について考えるプログラムです。



学科別のプログラムでは、卒業生を迎えた「OB・OGパネルディスカッション」を実施しました。社会人としてキャリアを積んだ卒業生より、仕事の魅力ややりがいについて、また学生時代の学びが現在の仕事につながるなどの話を伝えていただき、学生は将来の進路について幅広く考える良い機会となりました。

就活体験☆合宿

2017年12月2日～3日

四大3年次、短大1年次を対象に、1泊2日の「就活体験☆合宿」を12月に開催しました。

この合宿は、就職活動や選考過程で行われる説明会、エントリーシート・履歴書作成、集団面接、筆記試験、グループワーク、グループディスカッションなどをダイジェストで体験するプログラムとなっており、毎年好評を得ているイベントです。就職活動に関する情報や事前準備の大切さを知り、3月以降の就職活動について具体的にイメージできる内容で、学生29名が参加しました。



業界研究では、県内各業界を代表する企業をお招きし、航空業界・旅行業界・金融業界・ホテル業界について説明をいただき、学生は各業界への理解を深め、興味の対象、視野を広げることができました。

一連のプログラムを終了した学生からは、「大変満足した」「就職活動に臨む際の心構えを学んだ」などの声が聞かれました。

保護者向け就職活動セミナー

2017年11月11日

四大1～3年次、短大1年次の保護者の皆さまを対象にした「保護者向け就職活動セミナー」を、キリ学祭中の11月11日(土)に開催しました。

これから就職活動を迎える学生の保護者の皆さまに、現在の就職活動の実態を把握していただくため、本学の就職支援の内容や就職状況、就活スケジュールの流れ、企業の採用動向、保護者の皆さまからのサポート等についての説明と、併せて就職内定学生の就活体験報告を行いました。



T cafe

キャリア支援課では、スタッフ主催の少人数向け就職ガイダンス「T cafe」(TalkのT)を適宜開催しています。学内のcafeラウンジを活用し、リラックスした雰囲気の中、就職活動の準備に取り組む学生を支援しています。



2017年度は、「業界研究講座」「電話のかけ方」「エントリーシート・履歴書対策講座」「キリ学・キリ短生の英語力&コミュニケーション力を活かせる業界とは?」「内定者の話を聞こう」など、全15回開催し、学生の要望に応える企画となりました。



キャリア&アカデミックプランニング講座

2017年10月19日

四大3年次全員を対象に、就職活動と学修の両立を目指し「キャリア & アカデミック プランニング講座」を開催しました。卒業後の社会的・職業的自立に必要な能力を在学中に育むための気づきとなる講座として、キャリア支援課と英語コミュニケーション学科が共同で企画しました。



在学中から卒業後までの「キャリアプラン表」を作成し、学生が主体的に、かつ長期的視点で目標や計画を立てるワークを行い、就職活動については卒業研究スケジュールと重ねた流れを確認しました。また「社会人基礎力」を参考に、社会で求められる能力について考える機会となりました。

4年次(就職内定学生)によるパネルディスカッションでは、どの時期が学生にとって一番忙しいのかなど、就職活動と学修との両立について経験に基づく具体的なアドバイスがありました。「大学時代の学びの一つ一つが、キャリアを作る上で重要」との先輩の言葉は、3年次学生にとって大きなヒントになりました。



2017年度 沖縄キリスト教学院図書館では、図書館が主催するフェアやイベントを数多く開催し、多くの学生や学外者が図書館に足を運んでくれました。

- 4月 ●「学生時代に身につけたい読書習慣」(春のキャリア図書フェア)
- 5月 ●4年次向け文献検索セミナー
●「学生時代に読みたい一冊」～自分の視野を広げてみよう～
- 6月 ●絵本フェア・日英翻訳絵本フェア
●慰霊の日・平和関連図書展示
- 7月 ●「読む 夏!」(夏の小説フェア)
●絵本読み聞かせ講座
●ProQuestCentral(電子ジャーナル・データベース)講習会
- 10月 ●「読もう、本を。知ろう、図書館で。～“私の未来”に向けての進路選択～」(秋のキャリア&留学図書フェア)

- 10月 ●プロに学ぶ新聞の読み方講座(琉球新報NIE担当者)
●3年次向け文献検索セミナー
●聖書展示
- 11月 ●ビブリオバトル
- 12月 ●クリスマス絵本展
- 1月 ●「原作で振り返る映画特集～2017～」(ミニ図書フェア)
●「絵本deブックトーク」(保育科学生のためのブックトーク)
●図書館ロビーでプレゼンテーション



図書フェア・イベント・セミナー

絵本読み聞かせ講座

日時 2017年7月21日(金) 10:40～12:10
講師 平良 京子 氏
(一般社団法人 沖縄県子どもの本研究会会長)
場所 図書館ロビー

保育所実習を経験し、幼稚園教育実習前の保育科 2年次向けに、「絵本読み聞かせ講座」を開催しました。プ



ログラム前半は、平良京子先生による子どもの発達段階に合わせた丁寧な絵本の選び方から導入の方法、声の出し方など子どもの集中力を切らさない工夫などを学びました。後半は、グループに分かれ、講座で学んだことを活かし読み聞かせの実践を行いました。講座では、小道具を使った導入の仕方、うなへぐちの絵本を使った表現方法や、わらべ歌に合わせた手遊びなどを学び充実した講座内容でした。



聖書展示 - 宗教改革500年 -

日時 2017年10月2日(月)～11月18日(土)
場所 図書館貴重書室

図書館では10月31日の宗教改革記念日に合わせて、本学が所蔵している47種の言語で書かれた「聖書」を展示しました。書架に配架されているだけでは手に取ることのなかったラテン語や欧州、東南アジアの国々の聖書と言語にふれることができました。

講演会

日時 2017年7月1日(土) 14:00～15:30
演題 「地方自治の実現をめざして」
講師 小林 武 氏
沖縄大学客員教授(専攻:憲法学)法学博士・弁護士
場所 SHALOM会館1-1教室

関連図書展示:2017年6月26日(木)～7月8日(土)

沖縄キリスト教学院図書館講演会「地方自治の実現をめざして」を沖縄大学客員教授(専攻:憲法学)法学博士・弁護士小林武氏を招いて講演会を開催しました。講演では「地方と国の立場は対等か」、「沖縄の問題を自ら決定できないか」、「法律的にどうか」など、沖縄の置かれている現状をともに考え、学ぶことができた講演会でした。講演会に合わせて関連図書を図書館ロビーに展示しました。

ビブリオバトル

日時 2017年11月30日(木)
16:30～17:30
場所 図書館ロビー

本と出会える場を作りたいとの思いから図書館ロビーを会場に、今年も「第3回図書館主催ビブリオバトル」を開催しました。予選を勝ち抜いた5人の紹介者が、それぞれの「おすすめの本」に対する思いや魅力について熱く語りました。そんな紹介者の姿に観客も活発に質問を投げかけ、会場が一体となったビブリオバトルとなりました。

今年のチャンプ本は、英語科 2年次、顧太陽(くう・たいよう)さん『光園伝』に決定しました。この日紹介された本は、コメントを付けて図書館ロビーで展示、貸し出しました。



この一年の取り組み ～沖縄キリスト教平和研究所～

学生の学び合い ― 平和学習 ―

● 2017年8月23日～26日



学び合い参加者



平和の礎にて

2017年8月23日から26日までの4日間、本学会場に「第5回キリスト教を土台として沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い」が開催されました。これは県内外の学生が参加し、沖縄、長崎、広島それぞれの地における平和学習や平和構築の取り組みを紹介し合い、互いに学び合うという趣旨で始められました。

講演や、学生による発表、グループ討議だけでなく、この学び合いの大きな特徴として現地研修があります。沖縄戦の戦跡を訪ねたり、米軍基地の様子を見て学んだり、実際に自分の目で見て確かめることを大事にしてきました。それらに加えて昨年に引き続き、今年も辺野古で船に乗りました。海を埋め立てて新基地を建設しようとしている現場を海から見る経験はなかなかありません。参加者は辺野古、大浦湾の美しい海、サンゴ礁に感動の声を上げ、この豊かな自然を破壊して戦争のための軍事基地を建設する計画に心を痛めました。

全国の学生が出会い、互いの学びを共有し、それぞれの地から平和を創っていくことを確かめ合うことができるこの機会に、より多くの学生が参加してほしいと願っています。

特別講演会

● 2017年9月14日

定期的に行っている連続講座の他に、一年に1～2回特別講演会を企画しています。2017年はイスラエルのジャーナリスト、アミラ・ハス氏から現在のパレスチナ情勢について話していただきました。



アミラ氏はイスラエルの有力紙「ハアレツ」の記者としてイスラエルによるパレスチナ占領の実態を報じ、世界的に評価されています。イスラエル人でありながら占領を厳しく批判する姿勢は、国内では非難されますが、すぐに英訳されて世界中に発信される記事を読む多くの日本人からの信頼を勝ち得ています。この度は、講演だけでなくアミラさん自身が数日かけて沖縄を取材し、米軍基地をめぐるさまざまな状況をしっかりとその目と心に焼き付けていきました。

TEAM琉球の活動 ― 石垣島ピースツアー ―

当研究所には学生活動として「TEAM琉球」が位置づけられています。学生たちは研究所に集まり沖縄の歴史や沖縄戦のこと、



石垣島研修：オヤケアカハチ像前で

平和のことを学ぶだけでなくフィールドワークも大切にしています。特に春休みの合宿研修は、これまでは伊江島や宮古島でしたが、今年は石垣島へ行きました(2017年3月28日～30日)。八重山での沖縄戦、戦争マリア、戦後の開拓団入植、そして今の課題として自衛隊ミサイル基地建設問題など、多くのことに目を開かれてきました。

また県外学校の沖縄修学旅行ガイドを今年も引き受け、学生たちが日頃学んできたことを発信する一つの機会として大事にしています。

自分たちが生まれ育った沖縄だからこそもっと深く知りたい、そんな思いを持って学生たちが集ってきます。

英コミは、全体的に人数が少なく授業以外でも色々な人と出会って自分から話しかけたら輪が広がる大学だなあと思います。授業も行事も積極的に参加できるのでやる気次第では半年ぐらいたった頃には自分も成長したと実感しています。(英コミ1年 名幸 知希)

同窓会・後援会の活動

同窓会 活動報告

6月16日(金)、定期総会と懇親会を開催しました。今年度は役員改選の年で、譜久原朝儀会長を筆頭に新たに2名の役員が加わり23名でスタートを切りました。懇親会では、1期生の方から今年卒業された方まで幅広い年齢層の方が参加し、楽しいひと時を過ごしました。ゲストスピーチに第2代学長平良修先生をお招きして、首里キャンパス時代の思い出を語っていただきました。講話の後は、教え子たちが平良先生を囲んで思い出話に花が咲き、時が経つのも忘れて、終了時間を過ぎて話も尽きることはありませんでした。

11月12日(日)、キリ学祭の開催期間に合わせて同窓生の交流スペース「ゆんたく広場」を開催しました。《昔遊びコーナー》を設け、「日本のお手玉の会」所属の方たちに、本格的なお手玉遊びを伝授していただいたり、県内でも上位を争う剣玉の腕前をもつ役員のお孫さんたちに試技を披露

してもらったりしました。来年も同窓生のための「ひと休みスポット」「交流スペース」として『ゆんたく広場』の開催を予定しています。

同窓会の継続活動として、奨学金やキリ学祭援助金の授与、学生会役員との懇親会、新入生への記念品の贈呈、県外就活の助成、会員名簿のデータ整備作業などを行っています。

2年前に作製した同窓会オリジナルポロシャツの販売も引き続き行っています。ご購入希望の方は、同窓会室までご連絡下さい。

その他に、同窓会ウェブサイトの会長あいさつや活動記録などの更新、年4、5回の役員会・評議員会を開催しています。

同窓会では、若い方の参画をお待ちしております。ぜひ、同窓会定期総会・懇親会へ足をお運びください。



定期総会の模様



懇親会で平良修先生による講話



昔遊びコーナーでお手玉遊びをする子どもたちと同窓会役員



同窓会からのお願い

同窓会では会員名簿の整備を進めています。

① 住所 ② 氏名 ③ 電話番号 ④ 勤務先 の変更等をお知らせください。

【連絡先】同窓会事務局

TEL/FAX: 098-946-1280

E-mail: dousoukai@ocjc.ac.jp



同窓会・後援会

後援会 活動報告

後援会は1968年に発足し、以来、同窓会と連携を密にし、相互理解と協力を深め、学院の維持発展並びに学生の福祉増進に寄与すると目的を念頭に置き、各種事業を実施しています。そのひとつに、奨学金の授与があります。授業料の50%の給付型奨学金を学院大学4名、短期大学4名、大学院2名の学生に付与しています。その他に、キリ学祭の援助、県外就活学生への支援等を行っています。

後援会では、賛助会員の拡大を目指しており、本会の趣旨にご賛同いただける方はどなたでも加入できます。



定期総会の模様



総会における国吉守会長の挨拶



奨学金授与式

第25回 同時通訳集中講座

2017年8月5日～12日

今年もプロの通訳者養成講師の宮田耀彰先生を主任講師に迎え、本学講師陣(柳田正豪、A.David Ulvog、城間仙子)と外部講師の宮国薫子先生(琉球大学観光産業科学部講師)にも授業をご担当いただき、幅広く豊かな内容の講座実現にご協力をいただきました。

今年度の特別講演は、沖縄キリスト教平和研究所・東アジア共同体研究所共催の連続寄付講座に同時通訳サービスとして参加させていただき形式を取りました。上地恵龍先生(本学特任教授)による「日本のホスピタリティ文化をアジア地域に発信する～ホテル現場の実践事例を通して～」と題し、世界各国で日本のホテルを立ち上げてきたご経験から得られた、貴重で興味深い内容でした。講演会では、上級クラス、初級クラスの受講生が同時通訳ブースに入り、果敢に同時通訳に挑戦しました。

今年も無事予定通りに8日間の日程を終えることができました。関係者の皆様の多大なご協力に感謝申し上げます。



ワイワイプラザ in キリ短

地域親子支援事業として2008年度に始まった通称「ワイワイプラザ in キリ短」は、今年度で10年目を迎えました。保育科事業からカリキュラム(授業)への移行、学内のみでの開催から学内と西原町立児童館での開催など、この10年でさまざまな変化をしてきました。

今年度は、学内で4回、坂田児童館で1回開催しました。10月28日開催予定のグループは台風に見舞われ、ハロウィンにちなんだコーナーを準備していましたが、開催日直前に延期が決定しました。学生たちはとても残念がっていましたが、振替を12月にすることに決め、それから1・2年次が協力して準備活動を再開しました。臨機応変に対応するという保育科学生の特性を発揮し、見事にハロウィンとクリスマスを融合させました。当日も参加者全員でダンスを行うなど、楽しいワイワイになりました。

来年度も、学生たちの工夫に富んだワイワイを開催します。



公開講座 生涯学習を目指す方々のために!!



教会音楽講座(2016年度)

前期・後期の2期にわたり公開講座を実施しております。受講生も10代から60代と幅広く、どなたでも気軽に受講でき楽しみながら学べる講座の内容となっております。公開講座を通して、地域・社会における教育文化の向上に資することと併せて、これからも地域・社会のニーズに応じていきます。概要については、公式ウェブサイトに掲載しています。興味のある講座に奮ってご参加ください。

2017年度公開講座

1 前期

- 教会音楽合唱講座(神谷智子講師)
- ハワイ研究入門(崎原千尋講師)
- イタリアオペラの歴史I(マルコ・マッセターニ講師)
- イタリア歌曲の歌唱(宮城里美講師)

2 後期

- 楽しく学ぶ日常英会話(ベンジャミン・フォーゲル講師)
- イタリアオペラの歴史II(マルコ・マッセターニ講師)

理科教育支援事業

「理科嫌い」「理科離れ」と叫ばれて20年以上になり、小学校の高学年になるにつれてそれが顕著に現れてきます。

以前、私たちが行った西原町内の小学生を対象に行った調査でも高学年では同様の結果が得られました。

「理科嫌い」「理科離れ」という背景には知識主導型、暗記型、問題集のみによる理科授業があると考えられますが、理科授業で大切なのは、観察・実験の結果がなぜそのようになるかという理由(科学的に正しいとする理由)、それから、自分の立てた仮説が間違っていた場合は、なぜ間違っているかという理由(科学的に誤っているとすると理由)、その両方がそろって、児童たちが、「なるほど」と納得する「知的楽しさ」を体験することです。また、このようなことを通して、科学的な考え方を身につけることができます。理科嫌いではなく、理科好きな児童を増やしたいという思いで、2009年度にスタートした西原町との連携事業「理科教育支援事業」も早いもので9年が経過しました。これまで理科の授業における先生方への実験サポート、先生方を対象とした研修会、そして私たち支援者による児童たちへの授業を3本柱として行ってきましたが、今年度は、小学校の先生とのチームティーチングが行えたことが新たなステップとなりました。この支援事業は小学校や教育委員会の先生方からも高い評価を受けており、今後も継続してほしいという強い要望もありますので、これまで同様、小学校の先生方や教育委員会の方々と力を合わせて「理科好きな児童を一人でも多く増やす」ことを目標に地道に歩んでいきたいと思います。



西原町わくわくワーク 英語を使ったお仕事発見! ミニ授業体験

2017年11月12日

英語を使ったお仕事って何があるのかな?という問いで、授業が始まりました。

通訳、英語の先生、ホテル、スーパー、セールスマン…気が付くと私たちの身の回りにはさまざまな職種で英語が使われるようになっています。これらの仕事は英語に加え、コミュニケーションする力もすごく大事で、本学で学んでいる様子を解説しました。小学校1年生の児童から中学生の生徒まで、通訳、デザイナー、いろんな夢をもつ西原町の子どもたちとの出会いはこちらもわくわくの時間でした。また今回の参加者たちが成長し、活躍することを期待して、これからも地域とつながる教育活動を展開したいと思います。



沖縄からアジアを考える連続寄付講座 「東アジア共同体研究入門」

本寄付講座「『国際的平和の島』実現に向けて」は、北朝鮮の核武装や中国の脅威がクローズアップされた2017年において、非常にタイムリーなプロジェクトとなりました。元首相の鳩山由紀夫氏を皮切りに、著名なジャーナリストの高野孟氏、作家の山口泉氏、首都大学東京特任教授の戸崎肇氏、ラストは本学院大学特任教授の上地恵龍氏が講演を担当し、韓国の民衆芸術やエアライン業界の変革、沖縄のIT事情、我が国のホスピタリティ文化など多彩な切り口を通して沖縄からアジアの平和を考えるという意欲的な試みであり、学院外からも何度も熱心に足を運ばれる方々もおられました。

連続講座Ⅵシリーズ

「戦後の沖縄における教会の歩みと回顧 ―苦難の中での平和の願い―」と題して、当研究所では2010年からシリーズで連続講座を実施してきました。2017年はその第Ⅵシリーズとなりました。

第1回目の講座では、戦後の沖縄を生き延びたカトリック司祭の生き生きとしたお話を聞きました。第2回目は、国立療養所愛隣園の歴史とハンセン病への偏見、差別を学び、いまなお残る課題をどのように克服していくか、共に考える機会を得ました。最終回は、基督教児童福祉会愛隣園の歩みと課題を伺いました。沖縄戦によって親を失った子どもたちのために教会が中心となって設立した孤児院からスタートした愛隣園が果たしてきた大きな役割と、複雑化している子どもたちの状況への対応、福祉行政の中で求められる今後の展望を共に考える機会を与えられました。



第3回 仲宗根岩雄氏の講座

第1回 6月20日

戦後のカトリックの歩み ～私が沖縄で生きてきたこと～

ラサール・パーソンズ氏(カトリック文化センター館長)

第2回 8月24日

生きる喜びを奪ったもの ～ハンセン病問題を考える

長谷 暢氏
(真宗大谷派僧侶、ハンセン病問題ネットワーク沖縄事務局)
平良 仁雄氏
(ハンセン病問題ネットワーク沖縄共同代表)

第3回 12月19日

愛の業 愛隣園の設立と64年の歩み

仲宗根 岩雄氏(基督教児童福祉会愛隣園施設長)

退職教員メッセージ

ふたりの恩人

沖縄キリスト教短期大学 保育科 教授

川西 康裕



いまから28年前に、ご迷惑をおかけしたふたりの恩人がいます。

ひとり目は社会学者の副田義也先生です。当時は筑波大学の教授でしたが、東京で定期的に研究会を主宰しておられ、勉強させていたでいておりました。先生の教え子の畠中宗一さんがキリ短を退職されたので、後任の教員について照会があったようです。当時の私は、瀬戸内海豊島に家族を残して単身帰京し、研究所を辞めて大学院生の身分になっておりました。先生はこれを伝え聞き、私に白羽の矢を立ててくださったのです。

1989年の4月だったと思います。高円寺のマンションにあった「副田研究室」で、ふたり目の恩人・保育科長喜友名静子先生にお目にかかりました。首里キャンパスで面接を受け、6月に採用が決まりました。

翌年1月30日、北海道家庭学校・谷昌恒校長から、夜勤をしていた墨田区墨田母子寮に突然電話が入り、お会いしました。このとき副田先生には相談せずに北海道行きを決め、その翌日、那覇空港で妻と合流し、西原キャンパスで大城実学長と喜友名先生に辞退のお詫びをしました。喜友名先生は、「もう沖縄に来ることもないだろうから」と南部の戦跡をご案内され、そのあと料亭にお連れくださいました。

その13年後に喜友名先生から公募書類が届きました。つらい時でしたので涙がこぼれました。副田先生に本学への採用を手紙でご報告しますと、「喜んでいます。しっかり勉強なさってください」という葉書を頂戴しました。先生にお目にかかって定年退職感謝のご報告ができますようにと、願っています。

採用教員メッセージ



コミュニケーション能力を持ち、
地域経済に貢献できる人材を育成する

沖縄キリスト教学院大学
人文学部 英語コミュニケーション学科 教授

上 地 恵 龍

2017年4月に特任教授として着任した上地恵龍と申します。私は大学卒業後、航空会社のホテル開発部門一筋、沖縄を皮切りに国内はもとより、25年間アジア、ヨーロッパ各地におけるホテル開発および運営業務を担当し、その後本社で人事に関わる業務を担う経営職になり、世界に通用する人材育成の必要性を痛感しました。10年前に教員へと転身しました。好奇心・探究心・情熱という前職の頃から大切にしてきた初心を持ち続け、現在は一教育者として地域社会で飛躍する人材の育成に尽力していきたいと思いますので、沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学の皆様にはご指導・ご鞭撻を賜りますようなにとぞよろしくお願い申し上げます。



はいたい!

沖縄キリスト教学院大学
人文学部 英語コミュニケーション学科 講師

崎 原 千 尋

はいたい!崎原千尋んでいいちょーいびーん。みーしっちょーていきみそーりよーたい。

私が留学先のハワイから帰沖後、非常勤として大学の教壇に立たせてもらえたのが、キリ学でした。ハワイ語には、ネイティブ・ハワイアンが大切にしている「Kuleana(クレアナ)」という言葉があります。これは、自分の生きる場所や関わるコミュニティに対して担うべき役割や責任、権利という意味があります。私も沖縄の地、そしてご縁のあったキリ学で、学生たちや教職員の皆様の間わりの中で日々学び、刺激を受けながら、「クレアナ」を全うできるように頑張りたいと思います。ゆたさるぐとらうにげーさびら。

研究助成費獲得による研究活動

公益信託 宇流麻学術研究助成基金

- アクティブラーニングを活用した地域連携プログラムの開発
玉城直美(沖縄キリスト教学院大学 人文学部 英語コミュニケーション学科 講師)

- 沖縄県内保育所・保育園における地域に根差した造形教育の取り組み ～身近な植物を用いた造形や染め織りの実践～
佐久本邦華(沖縄キリスト教短期大学 保育科 講師)

科学研究費助成事業

- オーセンティック・マテリアルの選定方法とそれを利用した効果的な英語教授法の構築 (2017～2019年度)
研究分担者:Christopher Valvona(沖縄キリスト教学院大学 人文学部 英語コミュニケーション学科 教授)
研究代表者:米田みたか(武庫川女子大学)

- 観光資源として活かすための八重山諸島群の伝統染織物についての研究 (2016～2020年度)
研究分担者:佐久本邦華(沖縄キリスト教短期大学 保育科 講師)
研究代表者:又吉光邦(沖縄国際大学)

ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI

- 障害者雇用の大切さを学ぶ視点
近藤功行(沖縄キリスト教学院大学 人文学部 英語コミュニケーション学科 教授)

寄付感謝報告

寄付指定 (2017年1月1日～12月31日まで)

寄付へのご協力ありがとうございました。ここに感謝をもってご報告させていただきます。

個人(129件/¥3,065,675) 団体(33件/¥13,439,598) 合計(162件/¥16,505,273)

施設設備資金				教育活動				奨学金				学生会活動援助費				その他			
父 母	1	10,000		同窓 / 在学生	82	557,192		父 母	1	200,000		同 窓 会	1	300,000		団 体	1	182,098	
団 体	3	260,000		企 業	1	1,000,000		一般(個人)	1	100,000		後 援 会	1	200,000		教 職 員	6	50,000	
宗教(個人)	1	3,000		団 体	2	100,000		企 業	8	730,000		合 計	2	500,000		合 計	7	232,098	
宗教団体	1	10,000		宗教団体	4	82,500		団 体	3	450,000		沖縄キリスト教平和研究所				60周年記念			
教 職 員	3	25,483		後 援 会	1	3,000,000		宗教団体	4	600,000		宗教(個人)	1	50,000		同窓/在学生	3	30,000	
後 援 会	1	2,915,000		合 計	90	4,739,692		教 職 員	26	1,880,000		教 職 員	3	150,000		教 職 員	1	10,000	
合 計	10	3,223,483						同 窓 会	1	600,000		合 計	4	200,000		合 計	4	40,000	
								後 援 会	1	3,010,000									
								合 計	45	7,570,000									

2017年度人事

●学校法人沖縄キリスト教学院

【任期：2017年10月26日～2020年10月21日】

伊波 美智子 理事長

●教育管理職

2017年4月1日付

【任期：2019年3月31日まで】

照屋 信治 英語コミュニケーション学科長

柳田 正豪 英語科長

照屋 建太 保育科長

青野 和彦 総合教育系主任

【任期：2018年3月31日まで】

新垣 誠 異文化コミュニケーション学研究科長 ※人文学部長兼任

浜川 仁 学習支援センター長 ※教学支援部長兼任

●沖縄キリスト教学院大学

人文学部 英語コミュニケーション学科

2017年4月1日付

【採用】

大城 直人 准教授(任期教育職員⇒専任教育職員)

玉城 直美 講師 (任期教育職員⇒専任教育職員)

大城 実 特任教授(任期：2018年3月31日)

上地 恵龍 特任教授

崎原 千尋 特任講師

【昇任】

Christopher Valvona 教授(准教授)

【異動】

城間 仙子 准教授(総合教育系)

2017年10月1日付

【採用】

村田 典枝 特任教授(任期：2018年3月31日)

2016年度決算報告

2016年4月1日から2017年3月31日まで

資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科 目	決算額	科 目	決算額
学生生徒等納付金収入	708,219	人件費支出	544,959
手数料収入	17,067	教育研究経費支出	168,592
寄付金収入	20,520	管理経費支出	52,191
補助金収入	90,080	借入金等利息支出	1,289
資産売却収入	0	借入金等返済支出	36,000
付随事業・収益事業収入	4,568	施設関係支出	13,683
受取利息・配当金収入	5,231	設備関係支出	17,990
雑収入	6,612	資産運用支出	65,000
借入金等収入	0	その他の支出	34,174
前受金収入	352,657		
その他の収入	14,384		
資金収入調整勘定	△ 357,226	資金支出調整勘定	△14,563
前年度繰越支払資金	1,191,717	翌年度繰越支払資金	1,134,514
収入の部合計	2,053,829	支出の部合計	2,053,829

貸借対照表

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科 目	本年度末	科 目	本年度末
固定資産	3,318,408	固定負債	264,489
有形固定資産	2,598,813	流動負債	416,420
特定資産	716,000	負債の部合計	680,909
その他の固定資産	3,595	純資産の部	
流動資産	1,138,902	科 目	本年度末
		基本金	4,398,691
		繰越収支差額	△ 622,290
		純資産の部合計	3,776,401
資産の部合計	4,457,310	負債及び純資産の部合計	4,457,310

事業活動収支計算書

(単位：千円)

科 目	決算額
教育活動収入計	843,048
教育活動支出計	867,559
教育活動収支差額	△ 24,511
教育活動外収入計	5,231
教育活動外支出計	1,289
教育活動外収支差額	3,942
経常収支差額	△ 20,569
特別収入計	5,878
特別支出計	4,366
特別収支差額	1,512
基本金組入前当年度収支差額	△ 19,057
基本金組入額合計	△ 72,395
当年度収支差額	△ 91,452
前年度繰越収支差額	△ 536,837
基本金取崩額	△ 6,000
翌年度繰越収支差額	△ 622,290

(参考)

事業活動収入計	854,157
事業活動支出計	873,214

- 【資金収支計算書】は、1年間のすべての収入と支出の内容を表し、当該会計年度における支払資金の顔末を明らかにしたものです。
- 【事業活動収支計算書】は、経常的な収支(「教育活動収支」と「教育活動外収支」)と臨時的な収支(特別収支)のそれぞれ三区分の1年間の事業活動収入と事業活動支出を表し、当該会計年度における収支均衡状態を明らかにしたものです。
- 【貸借対照表】は、当該会計年度末における財政状態を明らかにしたものです。

Open Campus 2018



事前申込不要

オープンキャンパス

本学のオープンキャンパスは年3回のみ。高校3年生はもちろんですが、本学に興味をお持ちであれば保護者の方、1、2年生、社会人のみなさんも大歓迎です。プログラムは「体験授業」、「AO入試対策講座」、本学教員による「入試個別相談会」など受験生にとって志望校選択の決め手となるメニューを取りそろえています。当日は本島内に送迎バスを6ルート走らせてます。詳細については高校の進路相談室、本学HPもしくは入試課までお問い合わせください。

第1回

6/2[±]
13:00~16:00

第2回

6/30[±]
13:00~16:00

第3回

7/21[±]
13:00~16:00



キャンパス見学

オープンキャンパスは苦手という方へ。大学のハード・ソフトはもちろん細部に至るまで、落ち着いた雰囲気でお話を聞きたい方のためにご用意しているプログラムです。ひとりからご友人のグループまでと小規模人数での対応となります。日時、メニューは事前相談で調整のうえリクエストにできる限り応じます。

(例) 本学スタッフによる「施設見学」、「学科説明」、教員による「模擬授業」など



2019年度入試日程

AO入試

短大

9/4・9/5

大学

9/6・9/7

推薦入試

11/17

一般入試

前期

2/2

後期

3/12

